

高度技能に基づいた伝統工芸サブブランドに関する試験・研究開発(第2報)

－ 熟練度の違いによる唐塗作業動作の分析 －

Study on sub-brand development based on the traditional craftsmanship (2nd report)
－ Analysis of Kara-nuri work movements according to skill level －

鳴海 藍、小松 勇、濱田 圭、赤田 朝子

第2報では、サブブランド構築の一環として津軽塗の製造技術を分析し、特に「仕掛け作業」に注目した動作分析を実施した。動作分析とは、対象者の動き(パターン、時間、力、角度など)を定量的に評価することで、より効率的な作業方法を導く手法である。動作分析により、商品仕様書の作成に向けた技術の言語化および体系化を図るねらいがある。分析対象には、熟練度の異なる3名の被験者(高度技能者、中堅職人、初心者各1名)を選定し、共通の道具と素材を使用して作業を実施した。初心者にはのみ、作業前に作業動画および完成イメージを提示した。

作業結果を以下に示す。高度技能者と中堅職人は、仕掛けの明確な仕上がりイメージを予想しながら自身で効率の良い方法を選択し、手板間の仕掛けの高さ・密度共に意図して揃えていた。一方初心者は、動作による仕上がりイメージを予想できていないためか動作に迷いがあり、手板間での仕掛けの高さに差が見られ、密度もまちまちという結果になった。初心者の「手本を真似る動作」と経験者の「明確な仕上がりイメージのための動作」の技術差が明らかとなった。今回のような「一定の品質を保持するための技術」をサブブランド開発商品の仕様書としてまとめていく。また、仕上げた仕掛けについては、熟練度別仕掛けの山高さ比較を行ったので第3報で述べる。

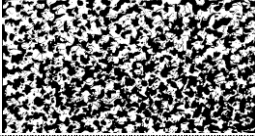
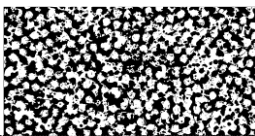
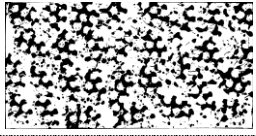
	高度技能者 (70代、経験年数40年以上)	中堅職人 (30代、経験年数10年程度)	初心者 (40代、経験年数0)
作業姿勢			
仕掛け			
作業時間	約5分/枚	約5分/枚	約3分/枚
観察内容	・ 最初の数枚は様々な方向からスタンプしている ・ ヘラを打ち付けるテンポが一定	・ 定盤と手板は平行気味 ・ ヘラをやや押し当てるようにスタンプしている。テンポは一定	・ 迷いながらスタンプしている。 ・ やや押し当てるように、慎重に行っている。
聞取内容	・ 仕掛けの高さを揃えることを意識した ・ 最初の数枚は試し打ち、その中で効率の良い方法を選択する	・ 網目になりすぎず粒になりすぎない仕掛けを意識した ・ 普段の絞漆よりも緩い	・ 手本を参考にしたがうまくいかない ・ 仕掛けヘラの使い方が難しい

表 熟練度の異なる唐塗動作の作業結果